

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	電界共役流体（ECF）駆動形マイクロシリンジポンプの開発
Title(English)	Development of Microsyringe pumps Actuated by ECF(Electro Conjugate Fluid)
著者(和文)	松原 竜也
Author(English)	Tatsuya Matsubara
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11588号, 授与年月日:2020年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:金 俊完,吉田 和弘,柳田 保子,松村 茂樹,吉岡 勇人,石田 忠
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11588号, Conferred date:2020/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	機械 機械	系 コース	申請学位（専攻分野）： 博士 Academic Degree Requested Doctor of	（ 工学 ）
学生氏名： Student's Name	松原 竜也		指導教員（主）： Academic Supervisor(main)	金 俊完
			指導教員（副）： Academic Supervisor(sub)	吉田 和弘

要旨（和文 2000 字程度）

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、「電界共役流体（ECF）駆動形マイクロシリンジポンプの開発」と題し、全6章から構成されている。

第1章「緒論」では、本研究の背景および目的を述べている。化学実験をマイクロ流路チップ上で行うラボオンチップや臓器の機能をチップ上に再現するオーガンオンチップは、反応速度の向上、試薬やサンプル量の低減などの特長を有する一方で、チップ外に接続する大形のシリンジポンプがシステム全体の小形化を妨げていると述べている。また、シリンジポンプの単純な小形化は、機械的な摺動部における寸法効果による相対的な摩擦の増大のため、その実現は困難であるとしている。この問題解決のため、水溶液と混ざらない電界共役流体（ECF, Electro-Conjugate Fluid）に直流電圧を印加してジェット流を発生させることで、数 $\mu\text{L}/\text{min}$ の微少な流量で水溶液を送液できる 25 mm $\times$ 25 mm サイズのマイクロシリンジポンプの実現を本研究の目的としている。

第2章「三角柱電極対向形 ECF マイクロポンプの開発」では、従来のシリンジポンプと同様に ECF を両方向に流動させる必要性から、一方向のみの流動を目的とした従来の三角柱スリット形電極対の電極配置を変更し、スリット電極を共有しながら二つの三角柱電極を対向させる新たな三角柱電極対向形 ECF マイクロポンプを提案している。このポンプでは、対向する三角柱電極への印加電圧をスイッチングすることで ECF ジェット流の向きを切り替えることが可能であり、小形化に有利であると述べている。この ECF マイクロポンプをフォトリソグラフィおよび電鋳技術を用いて試作し、発生圧力および流量を実験的に評価することで両方向への流動が同等の性能を有することを明らかにしている。また、ステップ応答実験および周波数応答実験を行い、その動特性を明確にしている。

第3章「ノズルーフューザ形流路を用いた ECF 駆動形マイクロシリンジポンプの開発」では、機械的な摺動部のないマイクロシリンジポンプを実現するため、（1）三角柱電極対向形 ECF マイクロポンプ、（2）シリンジを構成する水溶液と ECF の界面およびマイクロ流路、（3）摺動部を有しないバルブ要素としてノズルーフューザをワンチップに集積した ECF 駆動形マイクロシリンジポンプを提案している。試作したデバイスでは、ECF が水溶液との界面を維持しながら水溶液を往復運動させ、数 $\mu\text{L}/\text{min}$ の送液に成功している。一方で、ノズルーフューザの整流特性の低さと製作誤差の影響の大ききから、高精度・高効率の送液には限界があることを明らかにしている。この結果から、送液の精度と効率を向上させるために、流れのオンオフ制御を行うアクティブバルブの必要性を指摘している。

第4章「ECF 駆動形アクティブバルブの開発」では、流れのオンオフ制御の実現のため、PDMS（ポリジメチルシロキサン）膜を ECF マイクロポンプの発生圧力で変形させ、ポートを塞ぐことで機能する ECF 駆動形アクティブバルブを提案している。（1）水溶液用 PDMS 流路、（2）PDMS 膜、（3）ECF 用 PDMS 流路、（4）ECF ジェット用電極対を有するガラス基板から構成されるデバイスを有限要素解析に基づき設計し、その製作に成功している。試作したデバイスの評価実験により、弁体となる PDMS 膜を十分に変形させるために必要な圧力とその印加電圧を明らかにしている。また、バルブ閉鎖時の耐圧力と ECF 駆動形アクティブバルブへの印加電圧の関係を明らかにし、その有効性を実証している。

第5章「アクティブバルブを集積した ECF 駆動形マイクロシリンジポンプの開発」では、低精度・低効率の要因であったノズルーフューザの代わりに第4章で開発したアクティブバルブを採用した ECF 駆動形マイクロシリンジポンプを提案している。試作したデバイスには、バルブ駆動用と水溶液の吸入・吐出用の2種類の ECF マイクロポンプがあり、各ポンプに必要な印加電圧とその特性を明らかにしている。送液対象として着色水を用いた実験において、バルブの開閉と水溶液の吸入・吐出のための印加電圧を同期させることで、微少な流量の水溶液を高精度かつ高効率に送液できることを示し、提案したマイクロシリンジポンプの有効性を実証している。

第6章「結論」では、本研究で得られた結果を総括するとともに今後の課題について述べている。

以上要するに本論文では、機械的な摺動部のないマイクロシリンジポンプを実現するため、（1）駆動源として三角柱電極対向形 ECF マイクロポンプ、（2）シリンジとして ECF と水溶液の界面を有するマイクロ流路、（3）整流要素として ECF 駆動形アクティブバルブを融合することを提案し、これらをチップ上に集積した ECF 駆動形マイクロシリンジポンプを実現し、その有効性を明らかにしている。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	機械 機械	系 コース	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	（工学）
学生氏名： Student's Name	松原 竜也		指導教員（主）： Academic Supervisor(main)	金 俊完	
			指導教員（副）： Academic Supervisor(sub)	吉田 和弘	

要旨（英文 300 語程度）

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This thesis, entitled “Development of Microsyringe pumps Actuated by ECF (Electro Conjugate Fluid),” is composed of the following six chapters.

In chapter 1, the background and purpose of this research were described. In the lab-on-a-chip field, it is required to downsize a bulky syringe pump connected to functional devices. However, to realize the miniaturized syringe pump is challenging because the frictional force in the mechanically sliding part increases due to the scale effect. Therefore, this research aims to develop a novel microsyringe pump actuated by ECF (Electro conjugate fluid) with no mechanical sliding parts. The ECF can generate a jet flow when the high DC voltage is applied to the electrodes. The microsyringe pump is conceptually composed of three parts: (a) ECF micropump as a driving source; (b) microchannel having a boundary between ECF (oil) and aqueous solution as a syringe; (c) a valve element.

In chapter 2, an ECF micropump with a triangular prism electrode facing to a slit electrode is newly proposed to generate a bidirectional fluid flow by switching the electrodes applied voltage. Through several experiments, its static and dynamic performance is confirmed.

In chapter 3, as a prototype, a microsyringe pump with the nozzle shape channel as a valve is developed. It is experimentally confirmed that the liquid interface reciprocates in the microchannel by the flow from the ECF pump and functions as a micro-piston and a micro-cylinder. Also, the necessity of an active valve is suggested to improve the diodicity.

In chapter 4, the ECF-driven active valve is proposed to control the fluid flow precisely. The working principle of closing the valve by deforming the PDMS (poly(dimethylsiloxane)) membrane by the ECF flow is described. The fabricated valve can tolerate the backpressure up to 50 kPa at the applied voltage of 2.0 kV.

In chapter 5, the microsyringe pump integrated with two ECF pumps, which is to withdraw/infuse an aqueous solution and to actuate active valves, is developed (25 mm×25 mm). Experimental results show that pumping can be performed at various flow rates (μL/min) without pulsating flow by merely changing the applied voltage.

In chapter 6, summary and future work are described.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2). (博士課程)